

## イギリスより

第3期 OB 森本 太郎

5年間の会社勤めを経て、昨年の秋から再び学生に戻りました。今、イギリスのボーンマスという海辺の街で、美大のマスターコースを履修しています。専攻はイラストレーション。イギリスに来て3カ月が過ぎ、長年夢見てきた生活がぼちぼち日常になってきたというところです。街中を歩いているとあちこちで日本語が聞こえてくるロンドンとは違って、この田舎町にはほとんど日本人はいません（語学学校のメッカであるらしく外人はすごくたくさんいます）。おかげで当初はわからないことも多く、見知らぬ人にいろいろな場面で助けられ、感謝感激の日々でした。日本人というだけでいろんな人が話しかけてくれたり興味を持ってくれたりするのには意外でしたが、それだけ日本の文化や経済に関心を持たれていることが伺い知れました。実際、大学の授業で日本について言及があることも多く、図書館にもかなりの数の日本の書籍が置いてあります。もっとも、こちらで日本のことがニュースで流れることは稀ですし、報道内容も日本のそれとはかけ離れて違ってはいますが。

イギリスの教育課程は独特で、修士課程は日本やアメリカとは違って1年間です（学校によっては2年のところもあるようです）。そのためか、長期休暇はありません。基本的には個人のプロジェクトを粛々と進めるので忙しさは自分次第ですが、土日もなく1週間は過ぎ去っていきます。気がつけば1年が終わっていきそうな予感がします。同級生は年齢も国籍もバラバラの30人ほどです。毎週全員が集まってグループワークやら講義やらをやりますが、当然ながら技術的なことは大学ですでに学んできているという前提があるので、決まった技術的なレクチャーはありません。技術的にどれだけ優れているかというのはさほど重要ではなく、むしろ理論的に、歴史的な文脈の中で、あるいは現代アートの中でどういった位置づけの作品なのかということに主眼がおかれます。つまり、エッセイだったりプレゼンだったり非常に重視されるわけで、もっとも英語を頑張らねばと思う日々です。頑張ります。

1年でできることには限りがありますが、その中でこれ以上はできないというくらいのことは何とかやり遂げたいと思います。それについては、イギリス生活についてとともに、来年詳しく書きたいと思います。ですが、留学やイギリスに興味がある人がいればぜひ聞いてください。ネットでたいていの情報は手に入りますが、古かったり、うそっぱちだったりする情報もかなり多いですから。最後にこちらで見つけた本から：

Conventional wisdom holds that if we work hard we will be more successful, and if we are more successful, then we'll be happy. (中略) But recent discoveries in the field of positive psychology show that this formula is actually backward: happiness fuels success, not the other way around<sup>1</sup>.

そういうことらしいので、この1年、ハピネスをテーマに頑張っていこうと思います。

<sup>1</sup> Achor, S. (2010), *The Happiness Advantage: The Seven Principles that Fuel Success and Performance at Work*, New York: Virgin Books (ISBN 978-0-7535-3946-0).